



1. 臨時 ITER 理事会開催

ITER 理事会の臨時会合が7月28日カダラッシュにおいて開催されました(図1)。ITER 理事会には、7つの ITER 加盟極の代表とともに、国際原子力機関 (IAEA) が参加しました。

会合は、フランスのパクレス高等教育・研究大臣およびローシェ欧州担当大臣からのメッセージで始まりました。メッセージは、「我々は実験炉建設期の開始という、この野心的な科学プログラムの達成に向けた決定的な瞬間に、実験炉建設サイトにおいて ITER 理事会を暖かく歓迎できることは、名誉であり喜びである」と強調するとともに、「ITER は、欧州及び国際パートナーが手を組むことによって達成できる事業の良い例である」と、結びました。

ITER 理事会は、ITER 機構が提示した ITER ベースライン文書を全会一致で承認しました。ITER 事業スケジュールの主なマイルストーンとして、2019年に初プラズマを達成すること、また重水素-トリチウム運転の開始を2027年とすることが確認されました。

すべての代表団は、これらの提案に払われた多大な労力に対し、ITER 機構および池田要機構長を称えました。ITER 理事会議長のエフゲニー・ベリホフ氏は、「ここで我々がやっていることは、ITER の成功だけでなく核融合の成功をも確実にすることである」と強調しました。

2005年11月から ITER 機構を率いてきた池田要氏は、ITER ベースラインの ITER 理事会による承認の際に、辞任する意向を早くから表明しており、ITER 理事会は本学会の会長である本島修教授(前核融合科学研究所長)を ITER 機構の新機構長に任命するとともに、ITER 機構の主な運営体制を承認しました。

2. 第17回 ITER 企業説明会の実施

7月8、9日に茨城県東海村テクノ交流館リコッティにおいて、第17回 ITER 企業説明会が開催されました。今回は、ITER 機構 CODAC ディビジョンから3人のスタッフ(米川 出氏、Franck Di Maio 氏、Bruno Evrard 氏)を講師としてお招きし、ITER 計装制御系の標準規格を記載する PCDH (Plant Control Design Handbook) の説明、CODAC が用意しプラント系で共通に使用するソフトウェア (CODAC Core System) の説明とデモンストレーションが行われました。企業からの参加を含めて41名の参加があり、活発な議論と質疑が行われました。

本企業説明会についての詳細は、以下のページをご覧ください。

http://naka-www.jaea.go.jp/ITER/jada/index9_b_17.html
(日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門)



図1 カダラッシュにて開催された臨時 ITER 理事会。



図2 東海村テクノ交流館リコッティにて開催された、第17回 ITER 企業説明会。